

事例

不登校児を持つ親の会

別府光の園 (大分県) 〒874-0838 大分県別府市荘園町8組 TEL 0977-23-2506

活動の概要

不登校児をもつ親、又は以前持った経験のある親を対象に、毎月1度臨床心理士の先生をコーディネーターとしてグループカウンセリング、個別化カウンセリングを展開しています。

法人の概要

戦後の混乱期、創設者である長田シゲ（シスター）が戦災孤児を自宅に引き取り、育てたことで事業が始まる。昭和43年に光の園保育園を創設、平成11年より光の園子ども家庭支援センターを併設しています。

創立当時から、職員が子どもたちと寝食を共にし、温かい家庭に代わって子どもたち一人ひとりが心豊かに育つように、できる限り環境を整え、また、愛が大人を通して伝わるように、日常の中で一人ひとりを大切に、心豊かな人格の形成がされることを目指しています。

●経営施設数…6

●主な運営施設

児童養護施設 光の園 昭和21年設立
定員45名

保育所 光の園子ども広場 昭和43年設立 定員60名

放課後児童健全育成事業 光の園子どもクラブ 平成12年設立 定員25名

児童家庭支援センター
光の園子ども家庭支援センター 平成11年設立

児童館 光の園親子の広場 平成16年設立

実施施設の概要

- 施設名…光の園子ども家庭支援センター
- 施設種別…児童家庭支援センター

施設の運営方針

光の園子ども家庭支援センターは、カトリックの愛の精神にもとづいて創設されています。

子どもたち一人ひとりにはかけがえのない尊い存在であり、子育て家庭の支援にキリストの愛の精神で努めます。

活動の内容

- 活動対象者…不登校児を持つ親、および経験したことがある親
- 活動の頻度…月1回 5時間
- 年間延利用者数…100名
- 活動開始年…平成11年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当センターにて相談援助活動を展開していく中で、地域の方より寄せられる様々な相談の一つに、不登校の問題があげられました。

気持ちをうちあける場のない子ども、様々な形で行動化する子どもと学校との狭間で苦しむ

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

親、双方への専門的な支援の必要性を感じてきました。

その中で、親たちの支えをすることで、その家庭全体の変化や、問題に向き合う力を育むことを期待できるのではないかと考え、親の会を開始しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

臨床心理士をコーディネーターとしてお迎えし、不登校児を抱える親へのカウンセリングを中心とした取り組みを展開しています。

現在、グループの性格別に2つのグループが2時間半ずつのセッションで展開されており、それぞれの親が自分たちの現状、気持ちなど伝え合い、癒しとなっています。

毎回同じ臨床心理士の方が毎月時間をさいて下さり、それはスタッフや利用者の大きな支えとなっています。資金面等については、その臨床心理士の方に毎月謝礼をお支払いしている他に特になく、もちろん利用者の方の参加も無料です。

■利用者の声、地域の反応

回数を重ねるたびに利用者同士の信頼関係やコーディネーター、スタッフとの信頼関係も深まり、自らの問題を話したり他の方々のお話を聞く中で、癒されたり、不登校という現象への理解も深まってきている様です。利用者の方々は皆、月に1度の会を心待ちにしており、心の支え、拠り所になっていると話されています。

地域においても、学校や関係機関にこの取り組みは知られており、相談を受けたり、困っている方へ当センターを紹介していただいたりしています。ひとつの機関で問題を抱えてしまうのではなく、他機関が連携して支援を行うこと

ができるようになってきています。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

この活動が不登校児を持つ親達の心の支え、拠り所となっており、共通の問題に対し共に支えあい励ましあう中で、「不登校」という現実と向き合う力が蓄えられてきています。同時に、専門的なケアと同じ悩みを持つ親達（利用者同士）のピアカウンセリングの相乗効果が見られています。

今後も継続してこの活動を展開していく中で、地域の養育の力を育む原動力となるように取り組んでいきたいと思えます。